



つちおと

新年のごあいさつ

東日本大震災の発生から、3度目のお正月を迎えました。2万人を超える死者・行方不明者を出し、今なお30万人近い方々が仮設住宅などにお住まいになられていることを重く受け止めるとともに、被災された皆様に改めて心からお見舞いを申し上げます。

私自身、阪神・淡路大震災を経験したこともあり、東日本大震災被災地の復興は、「私の命（さだ）め」だと、一刻も早く復興への道筋をつけ、復興を加速させることが課せられた責務だと、自らに刻み続けてきました。

この一年心がけたことは、被災地の皆様の想いをしっかりと受け止めること、要望に添うよう精一杯知恵を出し、汗をかくこと、同時に無理なことはなぜダメなのか、誠意を持って説得することです。加えて、難航していることは、自らの責任で合意を目指して行動・決断することも心がけてきました。

昨年、皆様のご努力、ご尽力により、宮城県は、復興の鈍音が徐々に高まり出した年だったと思います。

他方、応急仮設住宅に目を転じると、被災から3年弱が経過しても、ピーク時に比べ未だに9割以上が残っています。復興にはまだまだ時間がかかるでしょう。その過程で新たな課題も次々に出てくることでしょう。しかし、復興は必ずやり遂げなければならない大事業です。これまでの自らの経験を大事にしながらも経験にとらわれすぎることなく、復興を進めてまいります。

震災後、女川町の中学生が、思いを込めてたくさんの句を詠みました。

「いつだって 道のタンポポ 負けてない」
「見上げれば がれきの上に こいのぼり」
「がれき見て 空に誓った 涙こらえて」
「夢だけは 壊せなかった 大震災」

子供たちの未来のため、夢を果たせられるよう、後押しするよう、復興を少しでも早めることが、我々大人の責務です。被災地の復興なくして、日本の再生なし。

私は、復興副大臣として、宮城復興局職員とともに引き続き未来への責任に全力で取り組んでまいります。

平成26年1月

復興副大臣 谷 公一

◆新年のご挨拶のため、なるべく早い発刊を目指した1月号でしたが、結局月末になってしまいました。本当に遅ればせながら、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。 ◆昨年の暮れ、気仙沼市で建設を予定している一戸建てならびに長屋タイプの災害公営住宅の整備に関して、気仙沼市と地元の建築業者等で組織した「一般社団法人気仙沼地域住宅生産者ネットワーク」との間で協定書が交わされました。人手不足、資材不足が懸念されていますが、円滑に事業が進み、1日も早く入居できるよう復興庁も支援して参ります。 ◆最近、テレビなどで冬のスポーツの話題が取り上げられると、必ずと言ってよいほど耳にするのが高梨沙羅選手(17)です。今シーズンは絶好調をキープし、先日には日本人男女通じてのワールドカップ歴代最多勝利記録保持者となるなど、来月ロシア(ソチ)で開幕する冬季五輪でも金メダルが期待されています。彼女の人並み外れた素質と努力は、凡人の想像の及ばないところながら、少しでも見習って2014年が復興の飛躍の年となるよう努力したいと思います。 ◆今年が良い1年でありますように… (山)

～ <みやぎ>心の健康サポートセミナー ～

1月26日(日)、復興庁主催による「心の健康サポートセミナー」が、気仙沼市のはまなすの館において開催されました。

本セミナーは、被災者の方やボランティア活動で被災者を支えている方などを対象に、心の健康のスペシャリストがストレスと心のケアについて講演するもので、宮城県内では4会場で開催されます。

冒頭、小泉進次郎復興大臣政務官の挨拶では、人の声に耳を傾けることの重要性について触れつつ、人前ではなかなか話せないことがあるという被災者の方々にも話してもらえるようなサポートに取り組んでいきたいと、復興庁として今後の取り組み姿勢を示すお話をさせていただきました。

セミナーは、海原純子日本医科大学特任教授が講師となり、第一部の「心の健康サポート講演会」では、心の健康に関する意欲の向上、重要性の理解及び基礎知識の習得等に関する内容で、心の病に対する予防の推進を図ることを目的とし、ストレスが体に影響を及ぼすメカニズムやストレスによる体の症状、行動や気分、表情、体に現れる心のサイン等についてのお話がありました。

第二部の「心の健康サポーター基礎講座」では、受講後に地元での声かけや傾聴等を行うボランティアとしての活動を希望する方又は興味を持つ方を対象に、必要な知識や技術を習得することを目的とした、相談する側・される側のロールプレイ等の実践的な体験学習を含む講座を開きました。

セミナー全体を通じて、ご参加いただいた受講者は、和やかな雰囲気の中に笑いもあるなど、楽しんで受講されている様子でした。また、来場された方々にアンケートを実施したところ、「非常に参考になった」という声が多く聞かれ、「海原先生のやさしい話し方、わかりやすい説明を聞いて楽しく過ごすことができ、とても癒されました。今後の参考にして行きたいと思います」、「自分がやってきたことの再認識と新しいサポートの仕方を学ぶことができた」、「いろいろな視点で物や人を見ることの大切さを学んだ思いです」という様々な感想が寄せられました。

気仙沼支所として、被災地に所在している利点を生かし、引き続き被災者に寄り添い、ご要望・ご意見に耳を傾けながら、震災復興に取り組んで参ります。



主催者挨拶(小泉復興大臣政務官)



第二部 心の健康サポーター基礎講座の様子

～ 気仙沼市と一般社団法人気仙沼地域住宅生産者ネットワークとの協定調印式 ～

気仙沼市では、東日本大震災で被災し住宅を失った方々の住まいの早期確保のため、また地域復興を推進するため、郊外に整備する木造の戸建て・長屋住宅タイプの災害公営住宅について、地元の建築設計事務所や工務店、木材・建材流通事業者等約70社で組織する「気仙沼地域住宅生産者ネットワーク」に一括発注する方向で調整が進められてきました。

このたび、同ネットワークが法人化されるなど、協定締結に向けた準備が整ったことから昨年12月27日(金)に気仙沼市役所で両者の協定調印式が行われました。

気仙沼市は木造の戸建て・長屋住宅タイプ820戸の建設を要請し、同ネットワークがこれを27年度末までに建設する計画となっています。また、調印後のあいさつにおいて、同ネットワークの熊谷敬一郎会長から、「ふるさとの復興へ使命感を持って取り組む」と決意表明がありました。

資材・建材、技術者・作業員の不足など、施工環境は厳しいものと想定されますが、関係業者の力を結集することにより、今後、円滑に事業が進展するよう祈念するとともに、復興庁はじめ関係省庁も一丸となって、1日も早い入居が実現するよう努力して参ります。



調印した協定書を掲げる気仙沼市長と生産者ネットワークの熊谷会長

～ 鹿折地区のまちづくりを語る会 ～

昨年12月21日(土)、鹿折小学校2階若草ホールにて、鹿折地区のまちづくりを語る会（鹿折まちづくり協議会※主催）が開催されました。この会は、主催者のほか市役所及びUR都市機構、さらには大学の研究生、支援団体等が参画して、住民の皆様と鹿折まちづくりの将来像を検討するとともに、その将来像に関する意見交換を行う場であり、より多くの地域住民の思い・意見を聞き、将来の復興まちづくり計画に会の意向を反映させることを目的として開催されました。主催者のご厚意により、この会を傍聴する機会をいただきましたので、その概要を紹介します。

冒頭、鹿折まちづくり協議会で今後検討すべきとされている「ランドデザイン(将来像・まちづくり構想)」について3大学(工学院大学、近畿大学、宮城大学)から提案があり、被災地復興における大学の関心の高さに驚かされました。各大学のランドデザイン案は、それぞれ「多世代交流」「自然」「道」に注目した特色あるものでした。

次に各大学のランドデザイン案を参考にしながら、グループディスカッションが行われました。1人1人から活発に意見が出され、それが記録かつ集約されていきます。

また、鹿折地区外の方も参加されていましたが、全員が鹿折の住民という姿勢でディスカッションに臨んでおり、より広い視点から意見を集めることができたのではないのでしょうか。

グループディスカッションでは、ボーリング場、イベント会場など賑わいの場を求める意見がでる一方で、住民がどのくらい戻ってくるか、いつになったら家が建つのかといった将来への不安を口にされる方も。さらには、鹿折丼などの名物グルメをつくる、子育て支援できる町にする、人とのつながりを持てる町にする、といったアイデアも出されました。こうして出された意見は、鹿折まちづくり協議会、市役所、UR都市機構で共有し、まちづくり構想のための話し合いの中で検討・活用されるとのこと。

以上のように活発な話し合いが行われ、会が終盤を迎える頃には、鹿折の未来に夢を膨らませる雰囲気も感じられました。これから住民のみなさんの夢が詰まったまちづくり構想が、ひとつひとつ形になっていくと思われませんが、事業の進捗に伴って様々な課題が表面化することも想定されます。

復興庁として、関係機関と連携しながら事業の円滑な進捗を支援して参ります。

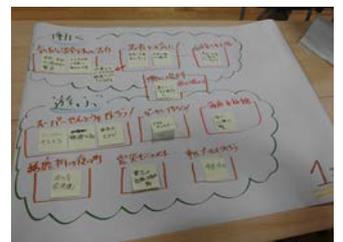
※鹿折地区まちづくり協議会は、17号のインタビュー記事で取り上げた特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所も支援しています。



鹿折地区の立体模型でリアルな検討



グループディスカッションの結果を発表



効率的に意見の整理・集約

～ 住宅再建・復興まちづくりの加速化措置(第四弾)の公表について ～

復興事業が本格化し、市街地の復興が進むにつれて、住まいに加え、まちの機能の復興が必要となり、市街地中心部の商業集積・商店街の再生が重要な課題となることから、復興庁は関係省庁と連携して、商業集積等を中心とした加速化措置を講じるとともに、より効率的に復興事業を進めることができるように新たな加速化措置を追加しました。

第四弾のポイントは ①「商業集積商店街再生加速化パッケージ」の策定、②住宅再建の加速化 となっています。

- ① では、市街地における商業集積・商店街再生の標準的手順を自治体に向けて提示（「被災地まちなか商業集積・商店街再生加速化指針」）するとともに、商業施設の整備等に関する支援策を体系化し周知します。
- ② では、復興事業の発注見通しの情報を一元的にお知らせするため、東北六県における各発注機関の発注見通しを統合して公表したり、全国の市町村に被災市町村への職員派遣を要請するなどの取組みを行います。

復興庁ホームページにて関連資料を公表していますので、詳細は以下をご覧ください。

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-15/20140109110317.html>

【2月6日開催】不動産証券化協会 復興支援セミナー「復興の課題と共同投資の役割」

一般社団法人不動産証券化協会（ARES）では、「復興の課題と共同投資の役割」をテーマとするセミナーを開催します。本セミナーは、被災地の復興を担う事業者の皆様不動産証券化の知識を学んでいただくことで、人材育成の側面から復興を後押しできればとの思いからの企画です。産官学の有識者による講演やパネルディスカッションを通じて、復興の現状と課題を整理し、今後に向けた展望を議論していただきます。◇日時：平成26年2月6日（木）14:00-17:00 ◇ホテルメトロポリタン仙台 4F「千代・東」
参加費無料・定員200名（先着順） 詳細はURLよりご確認ください。⇒ <https://www.ares.or.jp/seminar/user/summary/81>

【2月22日・23日開催】第9回仙台モーターショー2014 絆～東北復興への旗印～

一般社団法人日本自動車販売協会連合会宮城県支部では、宮城復興局ほか関係機関の後援のもと、4年ぶりに仙台モーターショーを開催します。イベントでは次世代自動車の展示や体験コーナーのほか、復興応援の一環として沿岸被災地の食を中心とした復興グルメ市の開催や岩手県陸前高田市の奇跡の一本松の鋼板製のレプリカである「希望の一本松」も展示予定となっております。◇日時：平成26年2月22日（土）～23日（日） 10:00-18:00 ◇会場：夢メッセみやぎ（みやぎ産業交流センター）
詳細はURLよりご確認ください。⇒ <http://sendai-motorshow2014.com/>

ナンプレにチャレンジ！！

3				1	9		6	
	9	6	5					
5		4			8	3		
	5				2		3	8
		8	1	6	5	9		
2	7		8				5	
		2	3			5		1
				4	2	8		
	8		2	5				6

ルール
・9マスごとの縦の列と横の列にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。
・太枠で囲まれた9マス（縦3マス、横3マス）にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。

【編集後記】

◆強烈な寒波が訪れている今日この頃ですが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。私は最近バレーボールチームの皆様練習に混ぜてもらうようになりました。老若男女、楽しい時間を過ごしています。こんな素敵な町に感謝。今年もよろしくお祈りします。

（前号のナンプレの回答）

5	2	9	8	4	7	1	3	6
3	4	8	6	5	1	9	7	2
6	7	1	3	9	2	4	8	5
9	6	3	7	1	8	5	2	4
1	5	4	2	3	9	7	6	8
2	8	7	4	6	5	3	9	1
8	9	5	1	2	3	6	4	7
4	1	2	9	7	6	8	5	3
7	3	6	5	8	4	2	1	9

祝掃除大賞特別賞受賞



南三陸町の「平成の森仮設」にすむおばあちゃん達が手作りしている布草履が、見事「日本そうじ協会」の掃除大賞 2014 の特別賞を受賞されました。お家で履いて歩くだけでキレイになるだけでなく、これまでの支援に応えたいと、売上げの一部をアフリカの子供達へ！という取組みが評価されて受賞につながりました。おめでとうございます！

これまで発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます

- ①復興庁のホームページ
- ②宮城復興局
- ③気仙沼支所だより「つちおと」

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話 0226-23-5301
FAX 0226-23-5310

復興庁ホームページ
<http://www.reconstruction.go.jp/>